

NPO 法人

第48号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1589-8 大滝要造

TEL 055-288-2531 FAX 055-288-2533 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

2013新春山行 ～駒仙小屋と仙丈ヶ岳～ 石川 剛

2012年12月

芦安ファンクラブの忘年会の夜、井上さんに、駒仙小屋、雪多い北沢峠の話聞く。翌朝は雨、白雲荘の窓越しに、池の魚をぼんやり眺めながら、若い時よく出かけた、正月の甲斐駒、仙丈を思い出していた。戸台からの長い河原歩き、重いキスリングに喘いだ八丁坂…。頂上からの風景など何も思い出さないのに、妙に懐かしい。

2013年1月12日

1月の三連休を利用して、戸台へ。河原には10台程駐車しており、出発準備中。私達も冬用アウターにスパッツを付け歩き出す、堰堤工事の道を歩いたり、堰堤を越えたり、あまり踏まれて無く凍った道は歩きづらい。時折陽がさし、遠くに青空も見えるますますの天気。他のパーティーと前後して、角兵沢入口、鋸岳への指導標を通過、丹溪山荘の下に着く。此処が話に聞いていた数年前の台風で道が流され大きく変わった所か。丹溪山荘に沿って登る細い道で、アイゼンを付け、八丁坂に掛かる。山を登っている時の気持ちって、今も昔もちっとも変わって無いようで楽しい。ただ背中荷物が、重いテントの代わりにちょっと贅沢な食糧やお酒に変わり、悪戯に年者いだけ…。やがてバス道を横切り、大平山荘の横に出た、この小屋は何時でも煙突から煙が出ている様な雰囲気があるから不思議だ。長衛荘、北沢峠の看板、バス停、立派なトイレ。バスの通る広い道に立っても、昔の峠を思い出すことは出来なかった。

北沢への道に入り、新しい小屋を見る。同時に小屋から出てきた井上さんと逢い挨拶、小屋の写真を撮り、アイゼンを外す。入口には夜になると明かりが入り足元を照らす

可愛いいかまくらが作ってある。引き戸を開けて入ると、受付カウンターが有り洒落たストーブに火が入っている。小屋の説明を聞き、ビールを頂く。そのままお酒にそして夕食。二階のストーブの上が今夜の寝床、ふかふかの布団は暖かく、風の音も聞こえない。

2013年1月13日

五時に起きて、朝食、支度をしてゆっくり出発、峠のトイレの脇から登山道に入る。雪は締まってアイゼンが効きすぎる位、登山道沿いに上手く風を避けてテントが張られている。暫く行くと、次々と下山して来るパーティーに逢う、ずいぶん早い下山だと思い聞くと、風が強く、小山丈で引き返したとの事。私達も樹林が薄くなる辺りから、ピッケルに体重をあずけて耐風姿勢をとる回数が増え、我々も小山丈までかなと思いつつ進む。しかし、小山丈直下の斜面でふっと風が止み、仙丈ヶ岳への往復は展望を楽しみながらのんびり歩いた。小山丈へ戻り、コーヒー、みかん、パンの昼食。気温が高く、脚を投げ出し素手でも平気。何時しか薄い雲が広がり、天気が崩れるのを感じた。小屋へ戻って、明日は雪の降る中下る事になるねと話しながら、ビールにお酒が始まった。

2013年1月14日

お世話に成った井上夫妻に礼を言い、小雪舞う北沢峠を後にする。



北沢駒仙小屋は建て替えに伴って「長衛小屋」に名前が変わる予定です！詳しくは次号で特集します！

AFC研修旅行報告

2/3(日) 茶畑の登山道を通して ～ 満観峰・花沢山 ～

2/4(月) 風情ある石畳の参道 ～ 秋葉山 ～

清水 毅

暗い寒い眠いの三重苦を物ともせず、早朝集合してバスは一路静岡へ。R52 を経由して新しく開通した第二東名やPAのピカピカトイレに感動？しつつ、今日の山歩き出発点の宇津谷着。

その名を「鶯の細道」とか、古代から中世にかけて国の主要な道だった由。苔むした岩と生い茂る林の小径を往く風情は、いやが応にも歴史の旅人となる。途中からの山道も、皆まだまだ元気印。うん蓄、含蓄、老後の心配等々、息する暇なくしゃべり、笑いかつ歩き、芦安FCの活力の素か？ いい汗かいて「満観峰」頂上へ。海だ！駿河湾だ！それ以上に感謝の豚汁を頂き、涼しい風に、幸せ満腹おかわり3杯。下りは、時に光る海を眺めつつ、ゆっくり、ゆっくり、次第に無口に。「花沢山」経由でやっとの思いで「石部」の町に降り着いて、6時間の山行は終了。お疲れ。

今日の泊り「かんぼの宿」へ。窓いっぱい海を眺めての風呂は、「生きててしあわせー！」夕飯は広間で和の料理。それぞれに手酌で飲み干す至福のひと時。放課後はルームでカラオケ教室。芦安ファンクラブ一座のスター勢揃い。いやはや才能豊かなファンクラブ。

二日目朝は曇り空。雨なら山歩き中止の望みむなく、遠州森町石松つつあんの故郷へ。ここは名代の火防（ひびせと読む）の神と虎造節でお馴染みの秋葉神社の参道を、歩くと言うよりよじ登り、しっかり2時間山歩き、霧雨にけふる山門へ。神々しい事この上なし。本殿お参りもそこに、ありついた甘酒のうまい事。疲労に効く甘い汁。

昼飯は豆富創作料理を頂いて、帰りのバスは雨の中、車内は全員爆睡中。楽しかった思いをお土産に、一路故郷山梨へ。幹事さん、本当に有難う御座いました。

岩井友子

13名の参加のもと、往復の車中、登山中、宿での宴会の会話に花が咲き、旅は楽しい仲間がいればこそ。これからもファンクラブの存続に若い人の参加を期待したいと思います。

最後に幹事（杉山夫妻）さんと参加会員の皆様、ありがとうございました。

大久保長仁

歴史ある古道『鶯の細道』から満観峰、花沢山を登頂、昼ご飯での豚汁が美味しかった。宿泊先での花輪さんのお勧め地酒（磯白慢）美味しかったです。2日目の秋葉山では、お参りと天狗の皿投げ、火防のお札を購入し、今年のお安全祈願をしました。今回、3山登頂でき又美味しい食べ物も食べられて楽しい2日間を過ごすことができました。幹事の杉山ご夫妻、花輪さんお世話になりました。



渡辺典美

何年前か、同郷の級友と駿河の国を旅した折に国道一号線（旧東海道）宇津ノ谷道の駅脇から「鶯の細道」を辿ろうと試みましたが、その時はグループ大半の意向から峠越えは叶いませんでしたので、今回の研修登山のコースに鶯の細道が組み込まれていたことに「ヤッター」と心の中で叫んでしまった程、この道には歩き願望がありました。

それは、「日本百名山」北岳の中で、深田久弥が平家物語を引用し……宇津の山辺の鶯の道……甲斐の白峰をも見つ……と著述していて、実際に著者本人は現地に赴き、静岡市内の安倍川東から雪白き南アルプス南部の山を覩て赤石が聖岳であろうと著述しています。

今回、機会に恵まれ、この鶯の細道を西口から登り、宇津ノ谷峠に至り、あの平重衡が鎌倉に護送される折に心細くも打ち引かれて峠越えをしたとされる道を辿ることが出来たのです。この道は灌木が茂り、道幅の狭い石畳や階段が多く、伊勢物語の歌碑や説明版もあり、古の情緒にひたることが出来ました。

峠の分岐を右に分けて尾根道を登ると 2 時間弱で今回の目的である満観峰に着き 360 度の満観の中から、北西方に雪の南アルプス（聖・赤石・悪沢）を眺めることが出来、そこで私は思い当たったのです。

平重衡が甲斐の白峰と詠み、古の歌人の多くが「かひがね」「甲斐が峯」と和歌で詠じていることの実、そのころから現在の赤石山脈全体を指す呼び名は千年もの長い時代「かひがね」あるいは「甲斐の白峰」と呼ばれ、明治のころまで続いていたということではないのか…と。

南アルプスを愛し守る芦安 FC の者として誇らしい気持ちになってうれしさがこみ上げてきてしまいました。今回の研修も良かった!!

奥山かがみ

私にとってこの旅行は、今年 1 年の最初の山行になり、暮れから正月にかけて、体を甘やかした分いつも反省させられています。今年は、去年ケガをしたこともありいっそう体が重く感じられ、皆さんについてゆくのがやっとでしたが、おかげさまで楽しく歩くことができて良かったです。

満観峰の登山口は古の人も歩いた、和歌にも登場する道を歩き、下山時は文明の象徴である新幹線の出迎えを受け、時間の流れを実感しました。又 2 日目の秋葉山も、静寂の中昔の人の歩いた石畳の道を歩き、最先端の高速道路を家路に向かう、ぜいたくな時間を過ごすことができました。

幹事さんには色々お世話にな、ありがとうございました。

塩沢久仙

南アルプスの最南端には、私達日本人の信仰にとって重要な秋葉山がその存在感を示している。この秋葉神社に向かう途上、新しく開通した新東名の SA で三度笠を求め、小ぬか雨降る参道に降り立ったわがファンクラブの会員は、現在の衣装にその身を包んではいるものの、左目を閉じて空を見上げる様子は正に「森の石松」の生まれ変わりでした。

そこで思わず浮かび上がった、二代目広沢虎造の語った秋葉山の様子を紹介しましょう。

秋葉路や～花たちバナも茶の香り～流れも清き太田川
若鮎踊る頃となり～松の緑も色もさえ～
遠州森町良い茶の出どこ～娘やりたや、お茶摘みに～
ここは名代の「火伏の神」～秋葉神社の参道に～
産声挙げし快男児～昭和の御世まで、
その名を残す「遠州森の石松」を
不便ながらも～つとめます～……………

花輪初代

おかげ様で、夫婦 2 人して毎日がハッピーサンデーの身分なれど、気の合った楽しい仲間たちと出掛ける旅は気分を変えて楽しいし、心が弾む。やっぱり暖かい所はいいなァ。私にとって 3 回目の研修旅行でしみじみ実感。幹事様、ご苦労様でした。



清水准一

初日の満観峰へは今年もトン汁資材運搬係に徹し、やはり具を背負わされた小林さんと無駄口をきかずに、野鳥のさえすりに耳を傾けながら騒々しい面々より出来るだけ離れて先を登った。いくつかのアップダウンを繰り返して、森林を抜けると斜面は整備された茶畑が山頂まで続いていた。足元には焼津港、東正面には霊峰富士、まさにチャッキリ（茶切？）節の世界が広がっている山頂はとても広く、多くのハイカーがくつろいでいた。

「鍋ひっくり返し事件」の教訓を生かし、慎重に煮込まれたトン汁の味は最高だった。

帰りは花沢山を抜け、標高差 400m 余りを一気に下り海に出る。カモメやイソヒヨドリの出迎えも山育ちには新鮮でうれしい。宿では5時間強の行程の疲れを、夕日のきれいな、やや塩味のきいた温泉や気の利いた料理で癒され、幸せな時間を過ごせた。

2日目はショボ降る雨の秋葉山詣りになった。途中の祠には水汲み柄杓がいっぱい奉納されていて、よく見ると全ての底に穴が開いていた。安産祈願のお参り場所だそうだ。雨が強くなった頃、山頂に付き、早速社務所に入ると「八方塞がりの年」との大きな表示が目に入る。私の生まれ年も入っていたが、気を取り直しておみくじを引くとこれが「大吉」だった。願いが叶う皿投げは1/3の確率だったが、まあ、いいか。

冷えた体には、食堂での熱燗は格別だった。

二日間を通して、随所で広沢虎造節が懐かしく思い起こされた道中でもあった。

地元の利を生かし、かゆい処に手が届くような対応をしてくれた杉山幹事さん夫妻と花輪さんの気配り、秘伝の漬物を提供してくれた柳原さんに感謝です。ありがとうございました。

小林賢

「とーさん、バスが来てるよ！」と妻の声に外を見ると、バスの窓からなじみの顔が手を振っている。「しまった、寝坊した！」あわてて身支度をしていると、なぜかバスは出発してしまっただけ。いやな夢をみてしまったと目覚まし時計を見ると夜中の2時半であった。准一さんの電話で起こされた、研修旅行の朝でした。

宮下重晴

今回の研修旅行を企画して頂いた幹事さんにまずお礼を申し上げたい。有難うございました。東海自然歩道の鶯の細道を息を切らして峠へ出た、それから満観峰へきつい登りを老体にムチ打って何とか皆さんの後をついて頂上へ。途中荒廃した茶畑を目にした。何処も同じ、後継者がいない為に…と心が痛む思いでした。昼食にトン汁を戴いた、何と美味しかった事か。花沢山頂を越え簡保の宿へと。

翌日は、秋葉山の下社より表参道を登り、小雨の中上社に到着。75歳の私には一寸きつい登りだった気がした2日間の旅でしたが、良い思い出となりました。皆さん有難う御座いました。

塩沢裕子

奈良、平安の古道を宇津ノ谷から、いにしえの人々と時を越えて同じ山道を歩くことに、心わくわく足取りも軽く出発しました。

樹林を抜けると目の前に茶畑が広がる満観峰の山頂を望み、背後に南アルプスの白い峰が見えると皆歓声を上げる。頂上での展望を期待して、耕作放棄され背丈以上に伸びた茶の木の間を歩き山頂に到着。目の間に広がる富士山に歓声…山梨では見る事のない海を従えた富士は新鮮だ。

大展望の山頂で「具たくさん美味しいとん汁」を皆で賑やかに頂く昼食は、この旅一番のご馳走でした。

眼前に広がる花沢山を越え、日本坂峠まで下り、茶畑の名残を見ると、普段何気なく頂いているお茶ですが、栽培農家の苦労がうかがえ、大変なんだと思う。

用宗駅までの林道の下りで、久しぶりの山歩きの足が悲鳴を上げたが、沿道の放棄されたミカンは新鮮な味わいでした。



国民文化祭・やまなし 2013



国民文化祭は、全国各地で行われている各種の文化活動を全国的規模で発表し、競演し、交流することにより、文化活動への参加の機運を高め、新しい芸術文化の創造を促すことを狙いとした国内最大級の文化イベントです。

山梨県では、県内外からの参加者・観覧者に、山梨の文化や豊かな自然に直接触れ、体験していただき、四季折々の山梨の魅力を満喫していただくため、初の通年開催として、平成25年1月12日（土曜日）から11月10日（日曜日）までの303日間で開催されます。

南アルプス市では、パイプオルガンフェスティバル（6月8日）・南アルプスミニチュア版画展（7月13日～28日）・南アルプス山岳フェスティバル（8月3日～5日）・大正琴の祭典（9月28日、29日）・合唱の祭典（10月13日）の5つのイベントが開催されます。芦安ファンクラブも山岳フェスティバルのスタッフ、ガイドとして参加します。多くの皆様のご参加をお待ちしています！！

南アルプス山岳フェスティバル

知ろう！歩こう！輝く南アルプス



8月4日（日）

- 9:00～13:00 甲斐犬ふれあいコーナー
- 13:00～14:00 南アルプス国立公園指定50周年式典
- 14:00～15:00 講演会「山が私を育ててくれた」
なんでも鑑定団でおなじみ中島誠之助氏
- 15:10～15:30 フォトコンテスト表彰式
- 15:30～17:30 シンポジウム
「南アルプスの魅力と文化を語る」
- 18:00～19:30 懇親会

8月3日（土）・4日（日）

フォトコンテスト
応募作品展示
※募集期間4月1日～5月31日

8月5日（月）

仙丈ヶ岳登山
栗沢山トレッキング
楡形山森林ウォッチング
※ファンクラブのガイドがご案内します！

詳しいパンフレットはファンクラブホームページに掲載しております。

イベントのお知らせ (5・6月)

第3回 新緑・やまぶき祭

第3回目となる、南アルプス市芦安新緑・やまぶき祭が今年も開催されます！！

会場では、芦安ならではの「うまいもん」が数多く並び、ステージではバラエティに富んだ出演者たちがお祭りを盛り上げます。芦安ファンクラブでは、ちびっこクライミング体験コーナーや大好評のやまぶきツアーを実施する予定です。まぶしいくらいの新緑の瑞々しさと地元住民手作りの温かい雰囲気をお楽しみください！

詳しくは、後日芦安ファンクラブホームページでご紹介します！！乞うご期待！！

日 時 平成 25 年 5 月 12 日 (日) 午前 9:30～午後 2:30

場 所 南アルプス市立芦安小学校 校庭 ※雨天の場合は小学校体育館で行います。



南アルプス開山祭

南アルプス開山祭は、ウォルターウエストーンが北岳に登って 100 年目、野呂川林道が開通して 40 年目の節目に当たる平成 13 年に芦安ファンクラブが企画、当時の芦安村全体が協力してリニューアルさせました。山開きのセレモニーでは、ウエストーンを案内した当時の格好をした案内人が安全祈願をし、蔓払いを行います。

また会場では夜叉陣太鼓が鳴り響き、甲斐ヶ峰庵の手打ちそばがふるまわれます。まだ雪の残る北岳を眺めながら、2013 年の登山シーズンの幕開けに立ち会ってみませんか？

日 時 平成 25 年 6 月 29 日 (土) 午前 10:00～午前 11:30

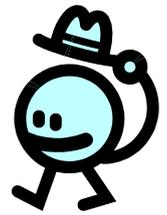
場 所 野呂川広河原インフォメーションセンター前

※会場へはマイカーでは入れません。山梨交通バスまたは乗り合いタクシーにてお越しください。

※荒天により林道通行止めの際は南アルプス市芦安「ふれあい館」にて行います。



平成25年度 登山教室のご案内



**南アルプス芦安ファンクラブの登山教室は
四季の高山の旬を届けます。**

**南アルプスのふところに暮らしている私たちだからこそ、
山のいちばんいいときをお届けすることができます。**

コース一覧

募集人員 各コースとも30名 催行人員 5名

回数	開催日 / 集合時間	目的地 / コース説明	登山口	難易度	申込 期限
	集合場所 / 参加費		宿泊	特殊な装備	
第32回	5月18日(土)19日(日) 集合 午後1時00分	カイトワカガミを訪ねて開かれた旧道を歩く ・・桧尾峠 高谷山 夜叉神峠・・	夜叉神トソネル 東口登山口	初級者向き	5月9日 (木)
	芦安山岳館 14,000円	1日目 座学「小谷部全助」と歌声喫茶 講師：日本山岳文化学会 砂田定夫氏 2日目 整備した旧道を歩き、高谷山・夜叉 神峠を目指します	芦安温泉施設		
キタダケソウ 観察会	6月29日(土)30日(日) 集合 午前11時30分	氷河期の忘れ物を訪ねて ・・開山祭とキタダケソウ観察会・・	広河原	上級者向き 大樺沢雪渓の登 下降あり 要雪上歩行経験	6月20日 (木)
	野呂川広河原イノホメ・ソノヒ タ 12,000円	キタダケソウ繁殖地(北岳南東斜面) ※北岳山頂には行きません	白根御池小屋	8本爪以上アイ ゼン・ピッケル	
第33回	10月5日(土)6日(日) 集合 午後1時00分	花崗岩の高みへ 紅葉の甲斐駒ヶ岳 南アルプス北部最良のビューポイント栗沢山	北沢峠	中級者向き	9月25日 (水)
	芦安山岳館 19,000円	Aコース 甲斐駒ヶ岳 Bコース 栗沢山	H25 新築 長衛小屋 (旧駒山小屋)		

■参加費は、当日受付でお支払いください。参加費には宿泊費・2日目昼食代・保険料・乗合タクシー代金・登山後の温泉入浴料を含んでいます。

■初日の昼食は、各自でご用意ください。

みんなで楽しみながら学んで、登って、山の素晴らしさを実感しましょう。

NPO 芦安ファンクラブは、南アルプス市芦安山岳館との共催で登山教室を開催しています。

登山教室では、実践を通して、安全で楽しい登山をするための技術や知識を学んでいます。

一人でもグループでも参加を受け付けています。お申込みをお待ちしています。

申し込み・問い合わせ

■申し込み・問い合わせ先

- ◆電話かメールでお問合せください。
- ◆芦安山岳館 〒400-0241 山梨県南アルプス市芦安芦倉1570番地
- ◆Tel 055 (288) 2125 ◆Fax 055 (288) 2162
- ◆http://ashiyasu.com/ ◆メール afc3193@net5.nus.ne.jp

■申込方法 所定の申込用紙にご記入の上、FAX 又はメールでお申込ください。トラブル回避のため電話での申込は受け付けません。

■登山教室の前後日に芦安温泉施設の宿泊を希望する場合、申し込み時にご予約された方につき、宿泊料1割引きサービスを致します。申込時に必ずご予約ください。

平成25年度 南アルプス・芦安登山教室申込書

参加申込書 ※申し込みは、各人ごとをお願いします。
※複数の登山教室にお申込みの場合は、該当するコースに○をつけてください。

参加コースに○をつけてください	回数	開催日	コース
	第32回	5月18日(土)19日(日)	カイトワカガミを訪ねて開かれた旧道を歩く 夜叉神ノ礼東口登山道・桧尾峠・高谷山・夜叉神峠
	キタダケソウ 観察会	6月29日(土)30日(日)	氷河期の忘れ物を訪ねて 開山祭とキタダケソウ観察会
	第33回	10月5日(土)6日(日)	A 甲斐駒ヶ岳・花崗岩の高みへ 紅葉の甲斐駒ヶ岳 B 栗沢山・南アルプス北部最良のビューポイント
備考 ※グループでお申込の場合は、この欄に、ご同行者様の氏名をご記入ください。			

※該当するところに、記入または○をつけてください

ふりがな 氏名		生年月日	昭和 平成	年 月 日 (年齢 歳)
住所	〒			性別 男 女
電話番号	自宅	【FAX】		
FAX番号	携帯			
	緊急時連絡先	【連絡者氏名】	【電話番号】	
メールアドレス	パソコン			
	携帯			
体力度(自己判断)	弱い	やや弱い	普通	やや強い 強い
健康状態				
山行履歴	◆登山暦 年			
	◆最近の主な山行暦をご記入ください。(例) 富士山頂 平成24年8月			
その他	◆芦安温泉施設での前泊を希望しますか。 前泊を希望する ・ 希望しない			
	◆その他質問等ありましたらご記入ください。			

【注】申込みに際して、次の事項を遵守してください。

1. ガイドの指示に従い、ガイドの示す注意事項を守ってください。
2. 安全のため、コースの変更など予定を変更することがあります。予定変更に従ってください。
3. 健康管理は、自ら責任を持ち、体調を整えて参加してください。
4. 自らの所持品は自己責任で管理してください。